

巻頭言：「ミニ特集：  
副専攻AI活用エキスパートコース完結」について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: Musashino University Smart Intelligence Center 公開日: 2024-03-25 キーワード: 作成者: 林, 浩一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2000194">https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2000194</a>

## 巻頭言

# 「ミニ特集：副専攻 AI 活用エキスパートコース完結」 について

## Special issues on Completion of AI Submajor Course

武蔵野大学 MUSIC センター長

林 浩一

武蔵野大学の情報教育を革新する戦略センターとして設立された MUSIC にとって、2023 年度は副専攻 AI 活用エキスパートコース（以降 略称である AI 副専攻）の完結という大きな節目を迎えた年でした。MUSIC には、設立当初より BYOD や DX 推進をはじめ、数多くのミッションが与えられていましたが、中でもとりわけ重要であったのが AI 副専攻コースの開講でした。学科横断で全学生が AI の活用について学ぶ事ができる副専攻コースという野心的なプログラムは、今後 AI が当たり前になる時代に向けて、武蔵野大学の果たすべき役割を占う試金石とも言える役割を担っていました。

MUSIC の現センター長を拝命している林は、2021 年度に入学した第 1 期生の修了まであと半年、最後の総仕上となる人工知能実践プロジェクトという科目を残した状態で、同センター創設者である上林憲行先生からこの大任を引き継ぎました。この最終科目は学生ひとりひとりがそれぞれ、AI テーマを持ちプロジェクトして追究するという高度な内容です。指導する側もはじめてのことばかりで、手探りで進める中、果たして履修生が脱落することなく学んだ成果を活かした結果が出せるかどうか予想できない不安の中でのスタートでした。

しかし、指導に携わって下さった先生方の尽力と学生の努力によって、それは杞憂となりました。2023 年の 9 月、成果発表会と副専攻修了式が行われ、無事 72 名の履修生が修了を迎えることができ、それをもって AI 副専攻プログラムは成功裏に完成を見ました。学生の多くは期待に応えて、個性豊かな成果発表を行ってくれました。驚くべきことに、その内容を発展させて学会発表やコンテストにチャレンジする学生が何人も現れ、さらにはそのことが新聞などのメディアに取り上げられるという望外の成果となりました。

ただし、この成果によって、AI 副専攻コースは完成したというより、むしろ、新しい変化に向けた準備が整ったと認識すべき状況にあります。折しも、2023 年は ChatGPT の登場によって、新たな可能性の認識が世界に広がった年でもあります。AI が当たり前にな

る時代は、MUSIC 立上げ時に想定していたよりもずっと早く現実になりつつあります。

新たな時代に向けたチャレンジを進めるのに先立ち、本号ではここまでの活動を振り返るべく、「副専攻 AI 活用エキスパートコース完結」と題した特集を組むことにしました。この特集には、教員として関わってくださった先生方の論文に加え、学生からの寄稿論文が含まれています。いずれも人工知能実践プロジェクトで取り組んだ内容を論文にまとめものです。ご高覧いただけましたら幸いです。

最後になりますが、この野心的なプログラムが完結にまで至る道筋は平坦なものではありませんでした。直面する様々な困難を乗り越えるために、教員だけでなく、学長はじめ理事者の皆様方、教務や学務に関わる事務部門の方々など多くの皆様に、多大なお力添えをいただきました。それらなしには、ここまでの成果を得ることはできませんでした。副専攻 AI 活用エキスパートコースの開講と運営に関わっていただきましたすべての皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。